

**武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会**  
**第5回委員会 議事要旨**

日時 平成26年1月21日(火)午後6時30分～

場所 かたらいの道市民スペース 会議室

1. 開会

■市民部長挨拶

2. 議事

(1) 第4回議事録の確認

ー特に意見なし、各自確認

(2) 配付資料説明

ー事務局より配布資料の説明

企画調整課、防災課、地域支援課、住宅対策課出席

(3) 中間とりまとめに向けた意見交換

■委員長

- ・本日も多数の傍聴者にお越しいただいている。
- ・この後の進め方についても、確認をしておきたい。

■事務局

- ・2月及び3月の委員会は予定通りのスケジュールで開催し、資料2の論点と資料1に対するご議論をお願いしたい。
- ・3月の委員会で中間とりまとめについて整理し、文言上の整理などは状況に応じて4月中に対応したい。
- ・5月以降に公表を行いたい。

■委員長

- ・中間とりまとめを、一般の市民の方に提示して議論をいただき、その上で最終的な答申になるかと思う。
- ・今説明のあった資料1がこれまでの論議を事務局と正副委員長との間でまとめたものであり、今後のとりまとめのベースになるだろうと思うので、一通り本日はこの内容について議論したい。
- ・2月及び3月は、資料2の内容について調整して、3月の委員会では方向性について合意をとるようにしたい。
- ・最初のイメージが要約的な内容になっているが、疑問点から含めて意見を出していただければと思う。
- ・どこかで整理しないといけないのであるが、様々な内容で使われている「コミュニティ」という表現について、ここでは一定の地域的な範囲の中にすんでいる人はもちろんのこと、その地域に通っている人や通りかかる人も含めた、コミュニティの問題について話

すべき人たちの母体を「コミュニティ」ととらえている。

- ・そういうコミュニティの問題に自発的に考えようという方が、コミュニティ協議会に自主参加している。
- ・実態としては、そういう方が、コミセンの管理にも携わっているが、本来の協議会はそれが目的ではなく、協議会という場を創っていくことが役割である。その場に様々な「目的別コミュニティ」と呼ばれる、目的別の活動団体が集いつつ、市民の自発性に基づいて運営されていき、必要に応じて行政支援を要請しながら地域課題を解決していく、ということだろうと思う。

#### ■委員

- ・これからのコミュニティのイメージとあるが、行政との関係についても議論されたように思う。この資料には行政がどのように関わるかは掲載しない方が良いのだろうか。

#### ■委員長

- ・意識して記載していないわけではなく、協議会に各行政の担当部局も対等に参加して協議するというべきなのかなどは、詰め切れていないので、是非ご意見として補足していただきたい。

#### ■副委員長

- ・協議会という言葉は、コミュニティ協議会とは限らず、一つの新しい場として取り扱っていただきたい。
- ・この場で行政の関わりはあるべきだし、その関わりのあり方、方法は多様であって良いと思うので、この場で議論して詰めていきたい。

#### ■委員

- ・プラットフォームという表現は「場」という意味でよいのか。

#### ■委員長

- ・最終的な表現方法は検討が必要だが、地域の人が集まっているいろんな課題解決について話し合うような場を創ろうという趣旨である。
- ・本来は「協議会」そのものであろうと思う。

#### ■委員

- ・協議会という言葉が、非常にわかりにくいように思う。
- ・協議をする場という説明は非常にわかりやすくなったと感じる。

#### ■副委員長

- ・フォーラムという言い方でもよいかというのもあったが、あまり横文字を使うのはどうか、ということもあり、協議する場として「協議会」を提示した。

#### ■委員

- ・協議会というと、特別な印象を受ける。協議をする場、というと雰囲気が大きく変わるように思う。

#### ■委員

- ・協議する場（協議会）という方が良いだろうと思う。

#### ■委員

- ・武蔵野市では協議会＝コミュニティ協議会と結びつくことが多いように思う。

#### ■委員長

- ・コミュニティ協議会というのは、そういうものを創ろうとして自発的に集まってきたものであり、そういう役割も期待されていたと思うが、改めて整理して、いろんな人が協議する場を作り上げていくという趣旨である。

#### ■副委員長

- ・行政も、こうしたイメージを共有することも大事だろうと思う。
- ・目的別コミュニティを支援する担当課が協議する場が、庁内にも存在し様々な情報を共有しているのが、望ましいのではないかと思う。

#### ■委員長

- ・行政がどこにあるのかというご意見について、協議の場に、各担当部課も含めてきて参加していただいているイメージが良いように思う。
- ・協議してできることを取り組んでいくことになると思うが、まずは行政と市民とが、対等に意見交換できる場であって良いと思う。

#### ■委員

- ・行政からお金が出ていることは明示した方が良いのではないか。また、協議会は複数あるので行政がそれを調整すると言うことが大事ではないか。
- ・財源や政策方針が必要な調整については行政が担うというようなイメージではないか。
- ・協議会を組織としてとらえるかどうかは、言葉だけではなくイメージ共有の観点でも重要なので、組織という言葉を使うかどうかは議論した方が良い。

#### ■委員長

- ・協議の場、という方が良いのではないか。
- ・組織にすると、それを維持するために取り組むと言うことにならないか。
- ・今の総会は、コミセンの運営だけになっているが、それ以外に行政も参加しているいろんな協議を行うことができる場でもあるべきで、それを継続的に作り上げる、用意するのが地域コミュニティではないかと思う。

#### ■委員

- ・行政は、「金を出すけど口は出さない」という状態が続いており、行政が遠慮しているように感じる。
- ・イメージの中に、ある程度行政が関わるということを入れておいた方が良いと思う。

#### ■委員

- ・ここで討議した結果について、コミュニティ協議会との意見交換は行う必要はないのか。

#### ■委員長

- ・5月以降の提示の具体的なイメージは詰めていないのだが、各コミュニティ協議会への説明は必要だろうと思う。

#### ■事務局

- ・5月以降については未定。当市では駅勢圏単位で地域別の集会を開いて論議する方法とることが多い。
- ・コミュニティ協議会とは時間をかけて議論する必要があると思われる。研連と議論する方法、各協議会に駅勢圏単位で集まっていたいただき議論する方法なども考えられる。
- ・目的別コミュニティと呼ばれている団体が集まった場を設けるとことも考えられる。

■委員長

- ・コミュニティ協議会と、主要な目的別コミュニティと、市民全体のそれぞれとの意見交換は実施する必要があると思う。具体的な方法は今後検討が必要である。
- ・事務局と正副委員長との間で調整をしたいと思う。

■副委員長

- ・コミセンとの関係と言うことであれば、研連として委員会の報告はしている。しかし、詳細な内容の説明が必要であるため、各協議会の代表の方への説明が必要だろうと思っている。
- ・また、「あり方懇談会」でも、これを受けてどのように対応していくべきかについてコミュニティ協議会で考えていかないといけないと考えている。
- ・広く大勢の方に聞いていただくことも必要だろうと思う。

■委員

- ・研連の中での報告は、内容については伝えているのか。

■副委員長

- ・委員会の中でどのような議論をしているかは話しているが、それがどのように伝播しているかはわからない。

■委員長

- ・これまで個別のテーマであったが今回初めてとりまとめたので、この内容について様々なところで議論していただきたい。

■委員

- ・福祉の会でも、代表者会議の中で5分程度であるが説明は行った。

■委員長

- ・個別の団体での情報共有以外だけではなく、委員会として出向くことも必要だろうと思われる。具体的な方法等は検討が必要である。

■委員

- ・論点1の「コミュニティとは」とあるが、「検討委員会での主な意見」の中で、コミュニティが仕組みを持ったりするのはおかしいように感じるので、ここは「コミュニティ協議会」などとした方が良いのではないか。

■委員長

- ・ここででている「コミュニティ」という表現は、場を設けて地域の人が参加していく仕組み全体をコミュニティという場合もあるし、そういう母体というものをコミュニティと呼ぶことも有り、ややこしくなっている。
- ・コミュニティ協議会やコミュニティセンターといえる部分はそうした方が良いと思う。

■委員

- ・答申するものも今回の資料のようなかたちなのか。

■委員長

- ・構成的には同じであるが、それを文章としてしっかり説明するとことになると思う。

■委員

- ・図が非常に重要である。内容についてより練った上で良いものにしていきたい。

#### ■副委員長

- ・コミュニティという言葉は、一般的には社会と同義語に使われることがある。社会という言葉の言い換えもあるだろうか。
- ・他の地域では、「コミュニティ」という言葉が理解できないということもあったようである。

#### ■委員長

- ・それは考えないといけないのだが、この図のベースになっているのを地域コミュニティと呼ぶのが一般的だろうと思う。
- ・それに基づいた仕組み作りは「コミュニティづくり」などとしていかないといけない。
- ・それ以上に困るのは、条例で言っている3つのコミュニティであり、これをどのように整理するかが問題である。
- ・コミュニティというのは、地域的なまとまりを想定している。

#### ■副委員長

- ・地域と言うことでのコミュニティを使いたい、条例では、地域コミュニティ、目的別コミュニティなどとなっている。

#### ■委員長

- ・「地域」だけとして、全体を「コミュニティづくり」とする考え方もあると思う。

#### ■委員

- ・「論点2」の「2点目の「・」」は、「地域全体」の方が良いのではないかと。
- ・また、「実家のようなもの」というのは、非常に同感であるが、ここで出すのは違和感がある。コミュニティ協議会が実家としての機能が不足しており、実家としてしまって良いのかとも感じた。

#### ■委員長

- ・各目的別コミュニティや様々な活動団体が、協議の場に出て悩みを相談したり支援を受けたりすることができる。その場を主に考えているのがコミュニティ協議会であろうという理解だろうと思う。なので、何かあれば頼れば良いということだろうと思う。

#### ■委員

- ・困ったときには頼るが、基本は自分たちが歩いているではなく、基本は自分たちで歩いているが、日頃の何気ないつながりがあるので、そのつながりにおいて、地域における役割を意識しながら頼っていくということが重要なのだろうと思う。

#### ■委員長

- ・いろんな活動のベースであり、それを本来コミュニティと読んでいたのだろうと思う。

#### ■委員

- ・これをまとめるときのまとめ方や整理するときに注意しないといけないと思うが、検討委員会の主な意見ということであれば、掲載されているのは良いと思う。まとめるときに「実家のようなもの」という表現は考えた方がよい。

#### ■副委員長

- ・なんでもかんでも面倒を見る実家としてとらえるのではなく、地域に対して心配をしているのがコミュニティ協議会の中心的な役割で有り、そういう意味での「実家」としてとらえれば、適当な表現になっていくのではないかと。

#### ■委員

- ・今までの議論の取りまとめに入るといいますが、とりまとめようとしているのは、理想的な姿なのか。とても違和感を覚えているのであるが。
- ・一部をみただけでもコミュニティ協議会はそれぞれに大きな差があるが、理想的な提案をしても、現在のコミュニティ協議会の現状からかけ離れすぎていないか。もっと根本的でかつ具体的な検討が求められているのではないか。
- ・実際には、今、そしてこれから何をしなければいけないのかをコミュニティ協議会としては悩んでいるところであろうと思う。

#### ■委員長

- ・この資料は、いろいろ話が出ていの中で、コミュニティ協議会や目的別コミュニティを整理するところという形になるのではないかという整理である。
- ・こうしたことを共有することで、今まではコミュニティ協議会が自主参加してきたが、その人たちがもっとオープンに協議会の場を設けるとい活動が促されるということになる。そういう風に考えていただきたい。

#### ■委員

- ・コミュニティ協議会の一番の問題は、人材不足ではないだろうか。
- ・本当に地域のことを考えているはずが、実際は仲間内の「コミセンサークル」のようになってしまっていることもある。
- ・コミセンの抱える根っこの部分を捉えないと、こういう答申がでてきても、具体的な改革につながっていかないように思える。
- ・運営委員の人たちが、コミュニティとしての地域を捉え直し、何のために自分は委員をしているのかに気づく仕組みが必要ではないか。
- ・アンケートや色々な資料が出ていの中で、“今何が必要なのか、不足しているのは何か”が、せっかく整理されているのに、そこへの目覚めがおきないと、傍聴者の意見にあった「絵に描いた餅が絵に描いた餅にまたなる」のではないかという風を感じた。

#### ■委員

- ・町内会というのは比較的エリアとして小さいが武蔵野市の16コミセンは大きなグループになっている。そういう中でのつながりがなくなっているように思う。
- ・マンション一つで一つの町内会レベルになっており、それをうまく取り込んでいくことが必要になるのではないかと思う。
- ・町内会としてのよさもふまえた具体的な施策も打ち出していないといけないのではないか。
- ・行政が積極的に関与していくような動きも必要なのではないか。

#### ■委員

- ・大きなマンションになると、500世帯や600世帯が居住しており一つの町内会より大きくなる。そうすると、そのマンション一つがコミュニティの一つになるのではないか。
- ・そうすると、コミュニティ協議会がマンションの管理組合に積極的に入っていく仕組みを作っていかなければ成らないように思う。
- ・管理組合は非常に遅れており、取り残されているように思う。役員になる方が少ないことと、年配の方と女性の方に限られるということも、その背景にあり、結果として、住

民の要求に応えられていないのではないかと思います。

#### ■委員

- ・マンションに関しては、各地方の町内会でも集合住宅は町内会の一つとして入っており、コミュニティ協議会との関係は変わらないように思う。
- ・南町では、地域マンション交流会という取り組みの中で、福祉の会とコミュニティ協議会とでマンションの方との話し合いの場を設けている。そこで聞いている限り、役員のなり手がなくなるとか防災に不安があるなどのマンションの悩みは、地域と全く同じである。そのため、お互いに歩み寄っていく必要があり、管理組合からもコミュニティ協議会にも参加するという動きも是非見せてほしいと思う。
- ・今何が必要なのか、欠けているものに対応して行く必要があるとのことであったと思うが、それは地域の課題であるので、それは地域で話し合うべきで有り、ここで話し合うべきなのは、コミュニティはどのようなものをめざすのか、そのための指針は何かを出すべきところなのではないかと思っている。
- ・コミュニティに関わっていない人からも、どのようなコミュニティがよいのか、より参加するためにはどうすれば良いのか、という意見が出てくると良いと思う。

#### ■委員

- ・協議会というものの位置づけや定義づけが共有されていない面があると思う。だからこそ、図をまとめるのが大事で有り、同じ気持ちにベースをそろえるのが大事なのだろうと思う。
- ・その上で、そのための仕組みや方法について、目に見えるものを出していくことも大事だろうと思う。
- ・コミセンがサークル化しているという問題点は、その人にもあるかもしれないが、協議会という定義や仕組みが見えないから、そうなっている面もあるかもしれず、定義や仕組みを打ち出していくことが大事であるように思う。

#### ■委員

- ・いろんな問題点があることが共有されてきたが、その問題点をどう解決するのかと言うことを考えてきたときに、例えばどのように地域を平準化するのか、という観点から考えると、これまで地域と市全体の課題の両側面から検討する側面がなかった点が問題であった。
- ・皆が集まれる場や協議できる場ができることで、情報が共有され平準化されていくというのは、方向性として理解できていると思う。

#### ■副委員長

- ・協議会の中のことは見えるが外のことが見えてこない。
- ・こういうまとめの中で見えてきているのは、コミュニティ構想では自分たちの力で解決しておこうという動きをしてきたが、その後、個別に目的別コミュニティなども出てきており、横で一つにまとめることができなかつた実態であろうと思う。
- ・そのため、一緒になって話し合いの場を設けると言うことは、大本の考え方に戻っているように感じている。
- ・そう考えると、絵に描いた餅ではなく、実体的なものに近づいていけるのではないかと、思う。

#### ■委員

- ・指針ができたとしても、全部が役に立つものではあり得ないように思う。
- ・その中でどれをとるかであるが、今までの話し合いと比べて、行政との関わりを深く話し合うことができたことが非常に大きな意義があったのではないかと思う。
- ・防災・福祉・子育てのそれぞれコミュニティの後ろに、行政が関係しているので、行政とコミュニティとの間で、今までにはなかった何かが出せれば良いのではないかと感じて、行政との関わりが気になっていた。

#### ■委員

- ・3~4人の方と読み合わせをしたところ、大まかなところはよくできているという意見があった。
- ・コミュニティ構想自体が理想が高く、なかなかそこに近づけないコミュニティ協議会もあるわけで、その観点ではコミュニティ構想を見直すという必要性もあるかもしれない。
- ・しかし、それは現実的ではないので、コミュニティ構想を前提とするのならば、こういう整理をしていくことが大事であるし、加えて行政の役割も細かく整理されており、その点も非常に良かったのではないかと思う。
- ・一方で行政がこれだけの役割を担えるかは非常に疑問である。

#### ■委員

- ・コミュニティが構築されるときには、大きな理想が掲げられている。しかし実際に動いている段階では、自主三原則で個人的になっているのだろうと思う。
- ・それに対して議論した内容をつきつけていけば、変わっていくのではないかと考えているし、放任主義にはばっていかないのではないかと思う。
- ・また、「協働」をより推進する形で進めていけば、まだまだ良くなるコミュニティ構想ではないかと思う。

#### ■委員長

- ・大まかに考えるとしても、具体的にこうしたらよいのではないかという提言をインパクトのあるキャッチフレーズのような形で出した方がよいのではないかと思う。
- ・そういう点で、意見があれば是非出していきたい。
- ・私は、今のコミュニティ協議会・運営委員会に、広く人々を集めて行政も参加するような話し合いを1年に1回でも良いので、設置していくことが良いのではないかと思う。

#### ■委員

- ・コミセンは自らいろんな事業を実施しており、そこにはかなりの労力を使っている。
- ・それ自体は悪いことではないが、目的別コミュニティの様々な団体と協働をしていく、ということを進めていけば、横の連携がとれるようになる。
- ・関前の場合は、福祉分野では何か取り組むときにはコミセンと一緒にやろうと考えるなどである。自分独自でやることだけではなく、幅を広くやっていくことが大事だろうと思う。

#### ■委員

- ・コミセン側から何かを提案したり、やろうとするのではなく、地域住民や目的別コミュニティなどが、何かの取り組みを行いたいという意思表示をしたときに、支援することが望ましい。また、その取り組みを行政や他のコミュニティにつなぐことが役割として

も重要なのではないか。

- ・コミセンが自己目的化して、がんじがらめになっている事業がたくさんあり、そこで苦労しているのではないか。地域の有志が主体になってやればよい性格の事業が多々あるように思う。
- ・一方、コミセンは箱物としての期待値や満足度は高い。その点は大いに利用の便宜を図ればよい。しかし、それ以外のソフトの部分については、まっさらな感じにしておき、地域住民のニーズに合わせれば良い。困ったことがあれば来てください、一緒に考えましょう、知恵を出し合いましょうと。

#### ■委員

- ・コミセンのイベントは、いろんな人にコミセンを知ってほしいということでやっているのだと思う。
- ・コミセンが何かあったら来てください、という状態のまま、多くの人々が来訪するならそこまで取り組む必要性はないと思うが、そういう場所であることが地域で知られていないため、コミセンごとに、自分たちができることをやろうとするのではないかと思う。
- ・仕組みとして、コミセンがこういう場所であるということが、当たり前になっていく仕掛けを作っていくことが大事ではないか。

#### ■委員

- ・まったく取り組む必要性がないとは思わないが、振り回されているのではないだろうかとも感じる。

#### ■副委員長

- ・コミュニティ協議会に求められているのは、コミュニティづくりであり、それは、人と人をつなぐための役割が求められているのだろうとおもう。
- ・イベントのためのイベントであってはいけませんが、地域の人に参加したり、人をつなげるための仕掛けがイベントであるように思っている。
- ・最初コミセンが立ち上がったときにはコミセンが何をすることか知られていなかったもので、自主サークルを立ち上げて、コミセンに来訪していただくことから始めた。それと同様で、イベントも参加を促し、地域のつながりができるということで行っているのだろうと思う。
- ・一方で、コミュニティづくりを改めて考えると、人と人とをつなぐだけではなく、団体と団体をつなぐことも必要なだろうと思う。
- ・そのためには、他の団体とも、そうした「地域でつながる」ということを共有していくことが重要でもあり、今回のようなまとめを提示することも大事だろうと思う。

#### ■委員

- ・南町コミセンでやっていることは、やりたくない人がやっているわけではない。そのため、縛られてやりたくないことをやっているという風にはとらえていただきたくない。
- ・やりたいことがあったり、コミセンに訪れたいと市民が思ったときに、コミセンがただ手をこまねいているだけであつたら、つまらないのではないか。
- ・常にアンテナを張るつもりで、アピールをするつもりで実施している。
- ・もちろん、精査や見直しは必要な面もあるだろう。

#### ■委員

- ・大変だと言いながら、達成感を持って実施している。
- ・ボランティアなので、嫌々やっている人はやめていくのだろうと思う。
- ・いろんなことに気がついて、協議会の中で意見を出す人が増えて、自分のコミセンを考えていくということが広がれば、コミセンがスキルアップすると思う。

#### ■副委員長

- ・16 コミセンすべてが違うが、それは違ってよいと思っている。
- ・コミュニティづくりの手法や段階・ステップは、地域にあった方法で取り組むのが良いだろう。また、地域の団体がうまく協議会に参加できていない状況があるのであれば、それは、その組織の人の人柄によるところもあるのではないか。
- ・今回この答申で、すべての地域団体に対して、地域に関係する活動であるということに気がついていただきたい。
- ・イメージの中でフラットな感覚で地域を見つめていただくのが非常に重要だろうと思う。

#### ■委員

- ・コミュニティ協議会だけに何かに取り組むべきというわけではなく、目的別コミュニティに対しても、地域に関わっていただきたいとの趣旨を伝えていかないといけないと思う。さらにいえば、市側でも各部局間の連携がとれていなければならない。

#### ■委員

- ・人材育成という観点で、行政や目的別コミュニティも含めた人材育成、研修制度を打ち上げていくべきではないか。
- ・研修制度があれば非常に数多い団塊世代の人材も、組織の中に入りやすくなるのではなる。その結果、人材不足の解消をはじめとして様々な問題点の解決につながるし、そうした人材が議論を深めていくことが、コミュニティの活性化に資すると思われる。

#### ■委員

- ・温度差があるコミセンがある中で、基本的に、コミュニティをどうしていくのかという議論を研連の中で行っていく必要があるのではないか。

#### ■委員長

- ・研修制度について、コミュニティ協議会が設けるだけではなくて、行政が活動を促すような研修を実施してもよいだろう。
- ・新しい人をどのように取り組むかというところでまた検討できれば良い。
- ・今までの議論の中で「インパクト」という観点で、こういう枠組みをふまえてどういう提案をするのかについてであるが、まずは、コミュニティ協議会の役割をコミュニティづくりとしたときに、本当に今の活動が役立っているのかと問いかけていくこともあるし、目的別コミュニティもこの仕組みを理解して参加してほしいという呼びかけもある。
- ・また、この仕組み事態が、行政の進め方の基本であることを行政も理解するということがある。
- ・我々の提言の中で強調すべきは、それぞれの人に対して見直すべき点を明快にしておくことが必要であろうと思う。

#### ■委員

- ・多様な目的別コミュニティ、というときに、コミュニティ協議会・コミセンとして受け入

れるかを迷うポイントは営利性である。

- ・土地にいる会社や企業も協働していくことが大事な世の中であると思うときに、どのように対応すれば良いだろうか。

■委員長

- ・地域貢献に当たる活動であれば問題ないとの理解ではないか。

■委員

- ・そうした点についても整理して周知することが必要だろうと思う。

■委員長

- ・企業の貢献を受け入れていくという協働はこれまでみられなかったのだろうか。

■副委員長

- ・コミセンは営利活動での利用できないことになっている。そのときの営利活動のとりえ方は10数年議論されている。現実的には、不特定多数の方に呼びかけて講座を開設するのは営利行為と見なしている館が多いのではないか。
- ・地域の課題解決と言うことからすると、企業の大きな動きを巻き込んでいくということは各地で起きており、こうした大きな活動は今後対応していく必要があるのではないか。

■委員

- ・コミセン利用における営業活動の禁止と、地域活動における企業の活用は全く違う話である。今まではコミセンの利用についての議論が主であったのかもしれないが、「協議の場」としてのことであるのであれば、全く別のこととして整理できるだろう。
- ・例えば地域の防犯を考えるときに、大学が様々なテクノロジーを安価に提供するということがあってもおかしくない。
- ・地域のことを考えるというレベルでは、企業なども入ってもおかしくはない。ただし、コミセン利用とは明確に区別しなければならない。
- ・そういう意味でも「協議会」が今までの「コミュニティ協議会」とは異なることを明確にしておく必要はある。

■委員長

- ・企業のをコミュニティにいかすということがあってもよいというのは、提案しても良いと思うし、それはインパクトが大きいと思う。
- ・今まで、そういう例はあるか。

■事務局

- ・パソコン学習会で使用するパソコンの提供などの支援はあった。緑化事業の協賛などでは企業との連携が行われている。

■委員

- ・保険会社でCSRの一環として、子供に対してお金の話をするといった活動もある。

■委員

- ・南町では、太陽光パネルを設置するときにその効用を説明していただいたり、子供たちへの講座を行ったりなどの例がある。

■事務局

- ・NPO レベルだと、コミュニティ協議会と連携した動きは数多くあると思う。

#### ■委員長

- ・企業との連携を意識するということは有効だろうと思う。
- ・協議会という誤解を受けるが、だが、協議の場だけではなく、様々な人や組織をつなげていくことも含めたコミュニティづくりも担っていくことになる。

#### ■事務局

- ・研修について、団塊世代対策として社協や市民活動推進課で相当昔から取り組んでいる。
- ・現在も、シニアネットむさしのを企画団体として、事業を展開している。
- ・コミュニティづくりをテーマとしたものは実施していない。コミュニティづくりはコミュニティ協議会が取り組むものという暗黙の理解があったように思う。
- ・行政との協働は、市民全体としてとらえていたが、コミュニティの場で実施するという意識も薄かったように思う。

#### ■副委員長

- ・研修については研連でも、運営委員研修や窓口研修などを実施している。
- ・昨年度は自由意見で課題を出すという研修を出したが、非常に活発な意見が出ると共に、その内容を共有することができたという点で、効果が見られた。
- ・また、マネジメントに関する研修なども取り組みたいと思っているが、参加者の調整が難しい面も有り、開催にはこぎ着けられていない。

#### ■委員

- ・研修については外部の講師を活用することも必要である。また、研修の必要性を幅広く共有できるようになると良い。

#### ■委員

- ・南町コミセンについて、交流会については知っているが、武蔵野市全体からすると、マンションの管理組合は遅れているということを前提として、共有させていただきたい。その上で、それに対して地域から応援していただきたいという趣旨である。
- ・次回以降是非議論させていただきたい。

#### ■委員長

- ・武蔵野市は、集合住宅が多いこともあり、コミュニティに関わりのない方をどのように引きつけていくかは重要な課題であるので、皆で知恵を出し合うようにしたい。

#### ■委員

- ・言葉遣いの問題だと思うが、論点⑤について、地域格差の減少という表現について、格差そのものの縮小とよめる。ミニマムの維持というのは意味が違うので、どちらの意味で使うのかとすることを決定する必要がある。
- ・行政としては、最低限保障していくことの方が重要だと思うので、この点は明確になった方が良いと思う。

#### ■委員長

- ・空白地域の解消という議論であったので、今のご発言の理解で良い。

#### ■委員

- ・教育に絡めて地域に根ざしていけば良いと思っている。
- ・一日窓口という体験や、学校にコミセンが外向いて、オーナーシップの気持ちを育むことも含めつつ、コミュニティについて話をするといった取り組みも考えられる。

- ・説明する側も、全体像を説明して、その上で地域のコミセンとしての特徴を話していくことで、自分たちのこととして整理できるのではないかと思う。

#### ■副委員長

- ・学校の副読本にコミセンのことを紹介した部分が有るということを知ったことがある。
- ・中学生の職場体験の一部でコミセンの窓口を体験するというカリキュラムがあった時期もあり、そういうことを復活させることも提言としてあるかと思う。

#### ■委員長

- ・いろんな議論が出たので、肉付けがされたと思う。また、改めて、目的別コミュニティ、協議会、一般のそれぞれの方に、この検討内容を出していかないといけないことと、そこでもまれていかないといけないということが、整理された。

#### ■事務局

- ・次回以降の検討課題として資料2で二つ整理しているが、今日の流れから次回は資料2の裏面の集合住宅等から議論していただいた方が良くと思う。

#### ■委員長

- ・時間があれば両方の論点について議論した方が良く。まずは、集合住宅等の議論を中心に実施し、エリアについても方向性を議論した上で、3月の会議で全体を触れるようにしたい。
- ・管理組合の状況や課題、若年単身世帯についてアンケートの追加分析を行い、次回報告する。

### 3. その他

#### ■事務局

- ・次回は2月18日（火）、次々回は3月18日（火）、今回と同じ時間及び場所で開催。

### 4. 閉会

以上